



# 事業執行の説明は丁寧

遠藤 宏司 議員

## 説明会開き理解求める

町長

**想定外の洪水対策は**  
大橋路面に冠水の恐れが出た場合の対策はあるか。

町長 過去の実態を考慮した場合、大橋路面までの冠水はないと考えられる。国交省大石田出張所と協議した結果、橋の両端部に大型土のうを設置し、民地側への流出を防ぐ方法が最善であると判断している。

基本的方針等を決定する機関であり、その決定に基づき事務局が具体的な事務を行う。したがって学校施設の工事施工は、事務局が管理を行うことになる。プールの設置は、設置費用や建設後の維持管理費を考えた場合、現在の町の財政状況では、大変難しいと判断している。



住民の声を聴きより良い施設に

**住民の声を聴くことで設計間違いを防げたのでは**

横山本郷地区では家並みのない方2カ所に流雪溝が設計された。住民の声を聴けば設計間違いを防ぐことができるのではないかと。より利用価値の高い施設にするためにも、事業全体の進捗について関係住民と十分な意思疎通を図るべきだ。

町長 原則的には基本設計が完了した時点と、詳細設計が完了した時点の二度説明会を開催し、ご

理解をいただいたうえで事業に着手している。

**北小にプールを**

北小学校はプールが無く大規模改造工事で一時的に体育館も使えない。教育内容の変更を伴うもので教育委員が説明すべきではなかったか。他の2校に比較し不平等な教育施設となるが、プールの設置は必須の課題とは考えないか。

教育長 教育委員会は委員の合議により町教育に関する事務管理及び執行



工事中の北小体育館

**小学校統合検討は早急に**

既存の小学校を活用した場合大改修が必要であり、補助金の活用なしでは大きな負担となり、新設に落ち着くことが予想される。中学校統合での経験を生かし早急かつ具体的に検討すべきでは。

教育長 仮に平成29年開校とした場合、基本設計は来年度から始めなければならぬ。新設も含めて町当局と協議を重ね検討する。

**スクールバスの有効活用を**

中学校の部活動は休日に遠征(対外試合)を実施することが恒常化している。保護者にとって送迎は大きな負担となっている。スクールバスの利用はできないか。

教育長 国の補助事業や交付金事業を活用し購入しており登下校以外の使用は本来できない。不可能を可能にできないか検討する。



# 町内企業への助成事業は

村岡 藤弥 議員

## 前向きに導入を検討する

町長

**町民を雇用した企業に対する助成制度は**

町内企業が町民を雇用しやすくするためや、町民の就業の場を確保するために町内企業への助成事業を実施する考えはないか。

町長 企業誘致が進まない現状であり、既存企業に対する助成を考えなければならぬ。助成事業を行っている市町村の状



町民の雇用対策が必要

**新教育長の自信を問う**

教育長 教育とは、子どもたちに各々の生涯を支える「誇りと絆と向上心」を育ませ、「自分の能力を活かす力」を培う機会である、と確信する。また、生涯学習については、町民1スポーツ・1文化活動の実現に努める。

況や効果等を調査研究し、前向きに検討する。



早急に統合検討を



補助事業に属さない福祉バス2台がある。それらの利用は可能ではないか。教育長 村山市の事例もある。これまで想定していない部分があるので早速検討する。